

令和 6 年度 弘前市総合計画審議会 議事概要（第 4 回）			
日 時	令和 7 年 1 月 1 7 日（金） 1 4 時 3 0 分～1 6 時 3 0 分		
場 所	弘前市役所 市民防災館 3 階 防災会議室及びオンライン	傍聴者	0 人
出 席 者	委 員 (12 人)	【会場出席（7 人）】 森会長、棟方委員、藤田委員、田澤委員、小山(悟)委員、 斎藤委員、成田(幸)委員 【オンライン出席（5 人）】 今村委員、高島委員、大西委員、清藤委員、外崎委員	
	事務局 (5 人)	企画部長、企画課長、企画課総括主査、企画課主査（2 名）	
	その他		
会 議 概 要			
1 開 会			
2 議 事			
(1) 弘前市総合計画後期基本計画改訂案について			
○主な質疑等の内容は以下のとおり。（「・」 委員意見、「⇒」 事務局回答）			
【政策①学び】			
・学校・児童生徒・家庭をつなぐ支援事業で導入する健康観察アプリについて、現在紙で発行される PTA の広報誌などについて、印刷費などの経費が結構かかるので、アプリを活用し、保護者・児童生徒がデータで閲覧できる環境を作ってほしい。 ⇒学校からのお知らせなど紙ではなくデータで提供できる機能があるので、教育委員会に伝えて検討する。			
【政策②文化・スポーツ】			
質疑なし。			
【政策③子育て】			
質疑なし。			
【政策④健康・医療】			
・「がん患者日常生活支援事業」の取組内容として、快適な生活を支援する旨の記載が追加されているが、具体的に事業内容とどのように連動するのか。			

⇒18 歳以上 40 歳未満で、要介護認定等と判断されたがん患者を対象に、在宅介護や介護用品購入に係る費用を助成する取組を新たに実施することで、当該患者の日常生活の支援につなげるもの。

【政策⑤福祉】

- ・終活支援体制整備事業について、身元保証支援を受ける高齢者等は費用を負担するのか。

⇒費用を負担いただく想定。当該費用をもって、将来的には本事業の自走化を目指している。

- ・身元保証を支援すること自体はいいことであるが、身元保証問題を抱えている人のほとんどは、金銭的余裕がないので支援を受けられない、というパターンであり、支援制度の利用者が費用を負担する仕組みなのであれば、正直、取り組む意義をあまり感じない。金銭的余裕があれば身元保証問題はなんとか解決できる。金銭的余裕がない人向けの支援策がなければ、おそらく身元保証問題は解決しないので、弘前市には金銭的余裕がない人向けの支援を行っていただきたい。

⇒身元保証支援について、民間だと契約や支払いなどでトラブルになりがちだと聞いており、公的機関が支援を提供することに意義があると考えている。

いただいたご意見は担当課に伝える。

【政策⑥雇用】

質疑なし。

【政策⑦農林業】

- ・資料 3 9 ページ目に、米に関する記述があるが、インバウンドの好調を主な要因として令和 6 年から米価が高騰しており、令和 7 年も同じ状況が続くだろう。

特に令和 7 年は大阪万博が始まり、米の需要が増加すると考えられるため、文章の表現を変えた方がいいのではないかな。

⇒担当課と調整する。

- ・青森りんご植栽 150 周年記念事業について、記念式典は弘前市内で実施すると聞いているが、全国から関係者が訪れるので、りんごも含めたいろいろな魅力を PR する好機である。

また、弘前市としても独自に記念事業を実施するとの説明であったが、りんご公園やアップルパイなど弘前市の資源を十分に活かしながら、県と重複しない取組を実施していただきたい。

⇒市民にはりんごの歴史を、弘前を訪れた人にはりんご植栽 150 周年を感じていた

だけの取組を実施したいと考えており、県とは重複しないよう取組を企画していく。

【政策⑧商工業】

- ・喫緊の課題である中心市街地の活性化について、リーディングプロジェクトに中心市街地活性化推進事業が追加されているが、これについて説明いただきたい。

⇒リーディングプロジェクトには、参考資料１の「２ 令和６年度終了の計画事業」No.５にある「健康とまちのにぎわい創出事業」が掲載されていたが、当該事業は当初の予定どおり令和６年度で事業終了となる。このため、今回の改訂では当該事業に替わり新たに中心市街地活性化推進事業をリーディングプロジェクトに追加するもの。

なお、中心市街地活性化に関する取組については、参考資料１の「令和７年度新規・拡充の計画事業」No.１９～２２にあるとおり、中心市街地活性化基本計画の策定の準備や、学生を中心市街地内の貸しスペース利用を支援するほか、空き店舗活用への支援など、一部取組を拡充する予定。

⇒中心市街地活性化のためには、これまでの取組を根本から見直す必要がある。

弘前商工会議所や民間事業者、物件の所有者の意見も聞きながら今後、まちづくりに取り組んでいく。

- ・まちづくりは行政の仕事の一部だが、一番大事なのはプレイヤーがきちんと動いていくことである。利害関係者から幅広く意見を聞いて、市がコーディネート役となり、活性化の方向性を定め、プレイヤーを後押ししていった欲しい。

【政策⑨観光】

質疑なし。

【政策⑩環境・エネルギー】

質疑なし。

【政策⑪安心・安全】

質疑なし。

【政策⑫雪対策】

質疑なし。

【政策⑬都市基盤】

質疑なし。

【政策⑭景観・文化財】

質疑なし。

【政策⑮移住・交流】

- ・シンガポール交流プロジェクトについて、いい事業だと思う。

シンガポールと聞くと、むつ市の取組が思い出されるが、なぜシンガポールなのか。他の都市との交流は検討したのか。

⇒むつ市はシンガポール国立大学との交流を進めている。

当市では、シンガポール植物園を守り、弘前大学の第2代学長として大学の発展に貢献したほか、戦後の荒廃した弘前公園の復興にも助言した、当市ゆかりの郡場寛に着目し、シンガポールとの一過性に終わらない交流を実現できるのではないかと考えている。

まずはシンガポール植物園との交流を深めていきながら、ゆくゆくはシンガポールをハブにして、当市に世界各国から観光客が訪れるようになることを目指していきたい。

【政策⑯市民協働】

質疑なし。

(2) 新たな地方版総合戦略の策定について

質疑なし。

(3) その他報告（令和9年度からの次期総合計画策定に向けた方向性について）

○主な質疑等の内容は以下のとおり。（「・」委員意見、「⇒」事務局回答）

- ・ワークショップ参加者を無作為抽出することだが、どのくらいの人数の参加を見込んでいるのか。

⇒40人くらいを目標としている。

参考までに、前回令和3年度に実施した際は、当初30人集まったもののコロナ禍でワークショップ開催が延期となった結果、参加人数が減ってしまった。

3 閉 会